

## 村島宮の首遺跡に関する調査・研究史

### ①昭和初期

- ・地元の有友不羈太郎氏や城戸通徳氏・尾崎繁年氏（地元郷土史家）らによって遺跡が発見される。
- ・昭和 8・12 年に樋口清之氏（國學院大学）によって学会に発表され、石斧や石鏃などを製造した石器製造遺跡と指摘される。

「伊豫國喜多郡地方遺蹟概説」『史前學雜誌』第 5 卷第 2 号

「大洲地方先史時代人の生活」『温古』創刊号

### ②昭和 30～40 年

- ・尾崎繁年氏や、谷本保山氏（八幡浜市の郷土史家）らによって再び遺物が採集されるようになる。
- ・昭和 38・41 年に長井數秋氏によって弥生時代中期後半の土器群として「村島式土器」と命名される。

「宇和町岩木洞穴遺蹟出土の弥生式土器に就いて」『伊予史談』第 168・169 合併号

「南伊予地方における弥生式土器」『西条農高研究紀要』創刊号

### ③昭和 40 年

- ・大洲考古学会、長井數秋氏らによって発掘調査が実施され、住居跡と炉跡が発見される。

### ④昭和 57・61 年

- ・『愛媛県史』の中で長井數秋氏によって打製石斧の製作遺跡として紹介される。

「農耕文化の形成と発展」『愛媛県史 原始・古代 I』

「村島遺跡」『愛媛県史 資料編考古』

### ⑤平成 15 年～

- ・市内の個人・団体から、本遺跡出土と伝わる石斧や石斧未成品など 200 点を越える資料が寄贈される。

### ⑥平成 26 年～

- ・大洲市教育委員会が発掘調査を開始する。

1 次調査（平成 26 年度）

調査期間：2 日 調査区：A1～4・B1～4 トレンチ

2 次調査（平成 27 年度）

調査期間：47 日 調査区：A5～16・B5～13・C1～8 トレンチ

3 次調査（平成 28 年度）

調査期間：継続中 調査区：A5～7・17～21 トレンチ

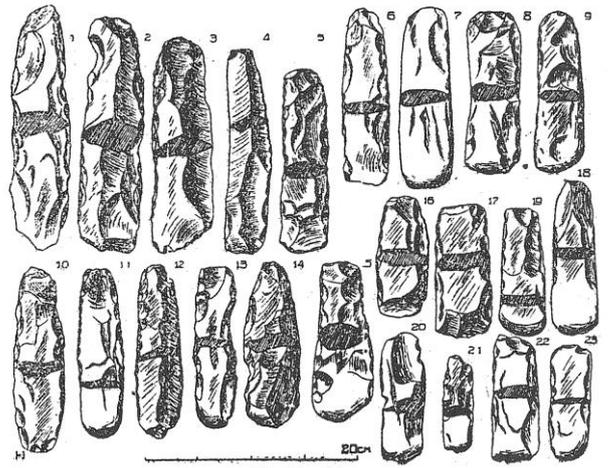


図1 昭和初期に石器が発見された際の新聞記事  
 (愛媛県歴史文化博物館 2002『えひめ発掘物語 ~発見の歴史と近年の調査成果~』)



3-107 村島遺跡出土の炉跡

図3 昭和40年の発掘調査発見された炉跡  
 (長井数秋 1981『農耕文化の形成と発展』『愛媛県史 原始・古代I』)



第三圖  
打石斧實測圖

図2 昭和12年に紹介された石斧の実測図  
 (樋口清之 1937『大洲地方先史時代人の生活』『温故』)

解 説  
 大洲市に流れ込んだのちも根太山の山麓を大きく侵入蛇行している。この肱川左岸の標高一四〇mの山腹斜面に本遺跡は所在している。  
 遺跡については、昭和四年(五五)に樋口清之が発表をし、中期後半の石器製造跡としての可能性を強く指摘している。遺跡の正式な調査は行われていないが、現在までに大量の遺物が出土している。石器のうち甕は上胴部に二、三本の三角凸帯を持ち、口縁端に刻み目をもつものが卓越する。なかには凸帯下に笹状の貼り付け文を持つものも認められる。壺は漏斗状に開く口縁部が肥厚ないしは上部にわずかに拡張され、そこに篋描きによる山形、格子目文を、頸部に指圧痕のある凸帯を持つ。これらの石器群は第IV様式第一型式の範疇に入るが、明らかに東・中予地方とは異なり、この頃から南予地方に特有の石器が出現しはじめる。石器は石包丁・石製紡錘車などの出土もあるが、その特色は多量に出土する打製石斧であろう。現在までに一〇〇個以上の石斧やその未成品、破損品が出土している。これらと全く同じ石斧が大洲盆地の中期遺跡から発見されていることは、本遺跡が石器製造跡である可能性がきわめて高く、注目される。(長井数秋)

七六 村島遺跡

大洲市菅田町字村島宮ノ首

(D〇三五)

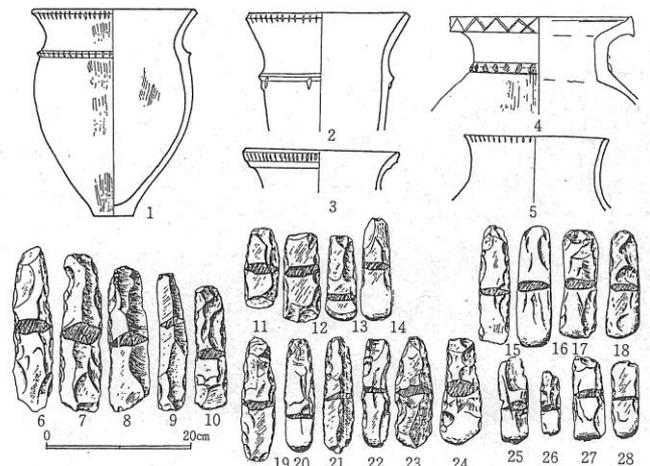


図3-86 村島遺跡出土の弥生式土器と石斧

図4 『愛媛県史』で紹介された村島(宮の首)遺跡  
 (長井数秋 1986『村島遺跡』『愛媛県史 資料編考古』)